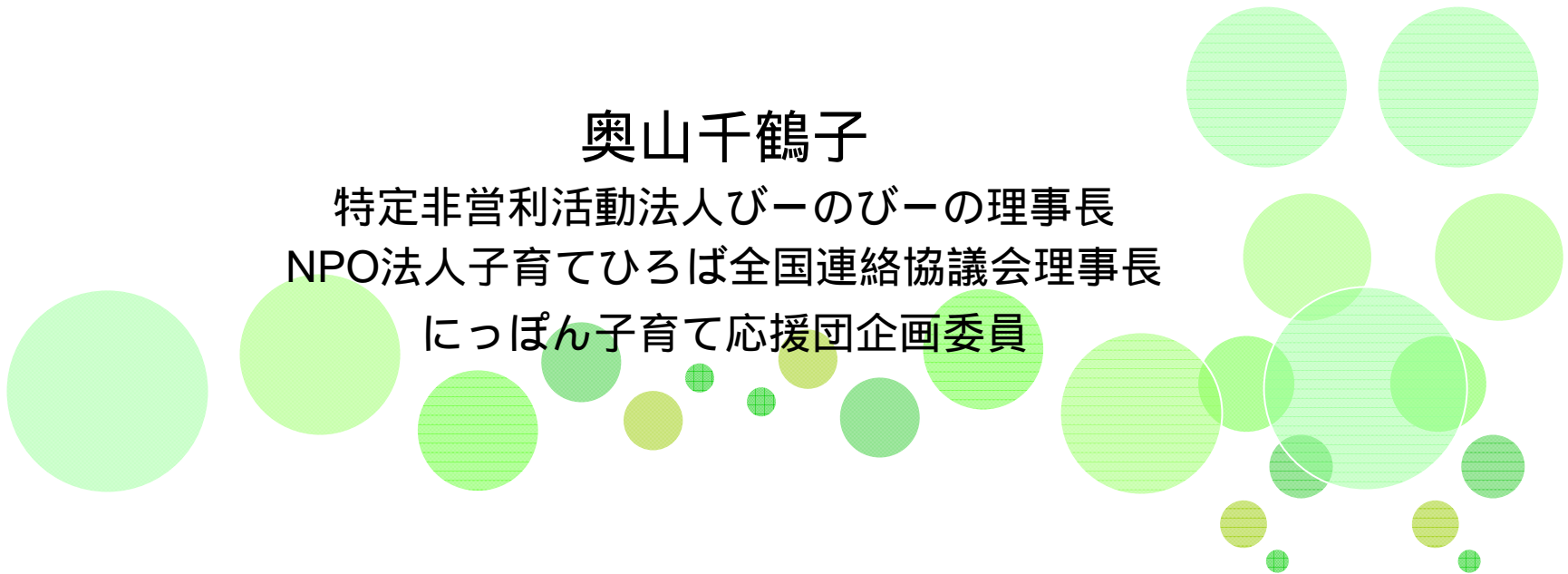


# 子ども・子育て支援の新システムへの期待

奥山千鶴子

特定非営利活動法人びーのびーの理事長  
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長  
にっぽん子育て応援団企画委員



# 課題意識として

## 3人の子どもの親として

- ・ 孤立、とまどい、てさぐり ・ 身近に必要なサービスがない
- ・ 幼稚園か？ 保育園か？ 情報が入手できない、入れない

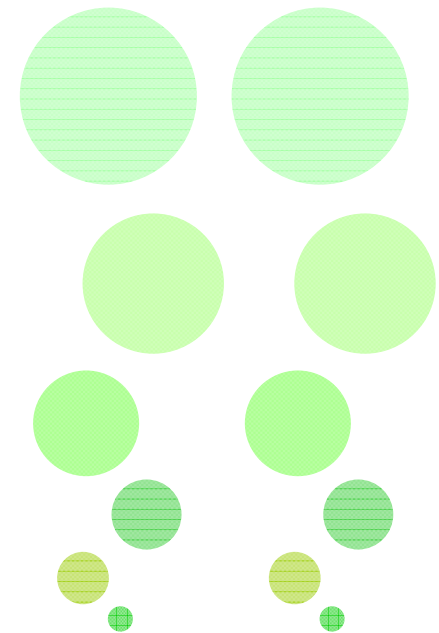
## NPO法人を立ち上げた経緯

- ・ 自分たちが必要なサービスは自分たちで生み出そう！
- ・ 乳幼児と親たちの居場所の立ち上げ（2000年開始）
- ・ 幼稚園・保育園ガイドの発行（2000年から毎年発行）

## 幼稚園・保育所入園前が問題

（3歳未満児は、7割～8割が在宅で育てられている）

- ・ 産前産後親へのケア・子どものケア体制が不十分
- ・ 地域との関係が希薄 ・ 孤立 ・ 情報がとりにくい
- ・ 育児休暇中は、復帰と保育所確保に奔走



# この15年の変化

## 横浜市K区

(1995年ごろ) エンゼルプラン

- ・地域子育て支援の芽生え
- ・幼稚園、保育園はまったくニーズの違うもの

(2010年) 子ども・子育てビジョン

- ・中学校区に一か所の地域子育て支援拠点の設置目標
- ・保育所には入れない、幼稚園の費用が相対的に高く感じる

リレー保育、非定型保育で5歳まで、預かり保育は平日のみ

\* 変化の中で感じる変遷

- ・子育て世代の経済的困難
- ・就労支援としての期待
- ・子どもの遊びの環境支援がもとめられている



# 今後考えていかななくてはならない視点

3歳未満の子どもたちのサポートは、親も入れた家庭支援という考え方のもとで実施

- ・ 現金・現物サービスだけでなく、親への心理的サポートも欠かせない
- 「保育に欠ける」はすべての子育て家庭に 家族内ケアの限界

- ・ 親が働いていなくても一定のサービスの提供

親も子も同じ立場の仲間や人とのふれあいの中で育つ環境設定へ

- ・ 親のエンパワーメントにつなぐ
- ・ 心身ともにケアされ、子どもが生まれてよかったと実感できるサポート
- ・ 在宅での育児も、働くという選択もできる社会へ
- ・ サービスは、家庭的環境、少人数で
- ・ 多様なサービスを地域やNPOが生み出せる社会へ
- ・ 支えられる側から支える側への循環を生み出す

地域力へ

# 子ども・家庭支援の政策目的

## 子どもの健やかな育ち

- ・ **確かな始まり (Sure Start)** が未来への投資となる。  
家庭力の格差是正のためにも、社会的なサービスが必要。

## 親のエンパワーメント

- ・ 保育サービスが十分であっても、親の養育力が子どもの育ちに大きく関わるため、親へのサポートも欠かせない

## 両立支援

- ・ 働き続けられる社会へ      ・ 働き方が選べる社会へ

## 地域力の向上

- ・ 子どもは地域で育つ。子どもを豊かに育める社会へ  
**就学前児童の育つ環境リスクの予防が、将来への投資となる**

子育てには時間と人手がかかる

子どもに関わる豊かな時間を生み出すために

親や企業に対して

働き方の改革(両親ともに子育てに関わるために)

ワーク・ライフ・バランスで実現

行政に対して

保育や子どもと関わる事業の量的拡充と質の向上

市民活動団体・NPO等との協働の仕組みづくりの実現

社会や地域に対して 地域子育て支援で実現！

地域の人たちが子育て家庭に関われる支援の創出(基盤整備)

地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業

ファミリーサポートセンター事業、家庭訪問事業など

子どもを育てるには村中の人が必要！

## 提案 3歳未満児と3歳以上の未就学児童を分けて考える

### 3歳未満児

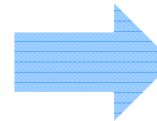
- ・親も入れた家庭支援として実施
- ・「地域子育て支援」
- ・「弾力的な保育サービス」
- ・「小規模な家庭的保育」



地域子育て支援型  
預かり保育事業

### 3歳以上

- ・幼稚園 ・保育所 を軸に
- ・**基本8時間保育**の実現
- ・学びの場と養育の場



幼稚園、保育所  
認定こども園

# 子育て支援NPO が活動するメリット

きめ細やかな地域事情に応じたサービスの創出と提供  
地域に根ざし、地域に財産として蓄積  
自発的な市民活動、地域活動へ



新たな公共の担い手の育成につながる

3歳未満児の「地域子育て支援」や「地域子育て支援型預かり保育」は、  
NPOなどを活用し地域人材を育成すべき



# 子育て支援NPOからみた課題

市民活動団体、NPO等に委託・補助が可能な事業であっても**実施していない自治体も多い。**

市民活動団体、NPO等が、政策決定に**参画する機会が少ない**

行政は**保育事業が主**、地域子育て支援などの独自性の担保や横断的な統括が弱い。

地域の事情に応じて、きめ細やかなサービスを提供したいが、自治体からの補助が出る仕組みがない。また**民間の助成金は単年度が多く継続が厳しい。人件費や、管理費を認めるものが少ない。**

地域人材の**研修機会が少ない。**

保育事業についても、社会福祉法人以外の法人には、建物の改修費用などがつかない(安心子ども基金)。

たとえば 一時預かり保育 NPOなどは期待されているが。。。

## 認可保育所の一時預かり保育

かなり安いけど定員枠が少ない（横浜市）

利用料 8時間2400円、1時間300円

## 地域子育て支援型一時預かり保育

ファミリーサポートセンター事業 利用料 1時間800円

リフレッシュ一時預かり保育事業（横浜市）利用料 1時間500円以内

地域人材を活用する事業の方が割高である。安定的な運営ができない。  
事業費も抑えられている。

利用者が増えない 担い手が増えない 使いにくい

の悪循環

## 提案

そこで 新システムに期待！

継続可能な子育て支援の仕組みの創設

国レベルのサービスや給付などを協議する機関  
の設立

政府から独立した専門機関

地方自治体ごとの協議機関の開催

地域のニーズに合わせたサービスが提供

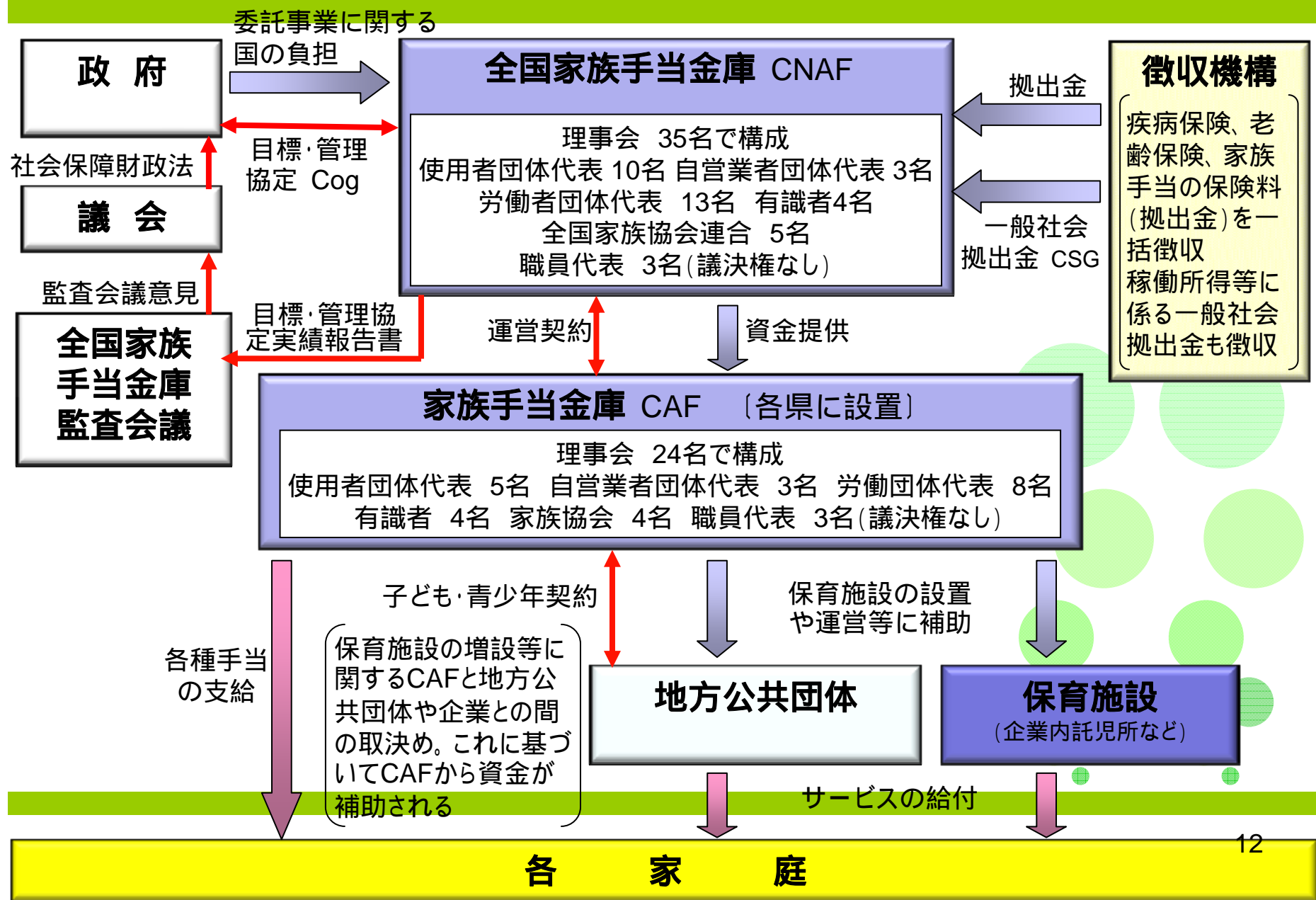
# 新システムに期待したいこと

1. サービスの地域間格差・不均衡の是正
2. きめ細やかで切れ目のない、体系だったサービス提供
3. 子育て家庭や支援団体、企業など多様な関係者  
(ステークホルダー)の参画、全国的な中間支援組織の育成
4. 一元的な給付と拠出のシステムづくりのための財源の統合
5. 地域の創意工夫と人々の信頼やつながりの再構築

重要

重要

(参考) フランス家族政策の給付(現金・サービス)全体を支える仕組みと財源



## その特徴 . . . フランスは

毎年開催される「**家族会議**」は1週間程度続く**国民的な話し合いの場**

「家族手当金庫」の理事会は、政府から**独立した機関**として運営

「家族手当金庫」は、地方自治体や企業との間で「**子ども・青少年契約**」を締結。地方の創意工夫を確保。多様なサービスに給付や資金援助を行っている。

財源は、雇用主の拠出金と社会保障目的のための税金  
(要支援家庭へのサービスは、国庫が負担)

# さいごに

子どもに関わる豊かな  
時間が、すべての世代をつなぎ、  
豊かな日本を再生させると信じて  
子育て支援は、  
未来への投資です。

なんとかしたい！  
(そう思う人たちみんなで、結成することになりました。)

にっぽん  
子育て  
応援団  
NIPPON CHILDREN + PARENTS SUPPORTER

結成シンポジウム！  
フレー  
フレー

開催します、5月9日(土)。

開 場 ● 13:00 開会 ● 13:30 終了 ● 16:30  
場 所 ● 女性と仕事の未来館  
主 催 ● にっぽん子育て応援団  
対象 ● 子育てでなんとかしたい!と思っている方などでも  
入場料 ● 無料(事前申込制) ● 参加費を希望される方は、お問い合わせください。

● お問合せは、03-6804-8001 平塚 25 年 4 月 8 日まで  
相談センター 東京地区

Chen-galen & baby  
チャレンジャー・ベビー

安心して子育てできる日本をつくろう。